

第1章 千葉県の現状と課題

1 生涯学習をめぐる現状認識

○社会情勢

- ・人生100年時代では、職場や職種の転換の機会も増え、リカレント教育の充実が必要。地域活動などの社会貢献も生涯学習の重要な要素。
- ・Society5.0に向け、技術革新が急速に進み、ICTなど先端技術を生かした学びの場の充実が必要。デジタル・ディバイド解消も必要。産業界では、各職種で必要とされる新たな知識や技能を身に付けるリカレント教育・**リスキリング**の充実が求められている。
- ・SDGsの国際目標「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進」の実現には、多様な主体の連携・協働が必要。

○県民の生涯学習の状況

- ・生涯学習をしたことが無い人の割合が高く、学習や学習成果の活用などの啓発が必要。 ・職業などにつながる学習ニーズが高まっている。
- ・学習に際しての課題は時間や場所等の制約が最も多く、ICT等の活用による課題解決が必要。

2 千葉県における生涯学習推進の現状と課題

	県	市町村	民間
学びの場の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒向けは充実。社会人向けは内容が限定的で職業に関する学び等は少数。産業人材の育成につながる学習が必要</li> <li>・障害者の学びについて市町村を支援 現代的課題に対する学習方法の開発、市町村支援が必要</li> <li>・学習提供方法は主に集合方式、オンラインは一部</li> <li>・県民の学習需要、県内企業による学習支援の実態把握が不十分</li> <li>・県と市町村の実施講座等に重複あり</li> <li>・生涯学習を行っていない人が多数 (国や県<b>商工労働分野</b>による<b>職業訓練職業に関する学びの提供</b>は多数)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や趣味、教養など身近な学びが充実 職業に関する学びは少数、地域差あり</li> <li>・障害者の学びは約3割の公民館等で実施</li> <li>・学習提供方法は主に集合方式、オンラインは一部</li> <li>・オンライン環境の整備が不十分</li> <li>・パソコン講座等のデジタル・ディバイド解消の取組は約半数の公民館で実施、地域差あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;企業&gt;</li> <li>・学び直しの時間確保には休暇制度や啓発を重要視、経済的支援実施は半数以上</li> <li>&lt;高等教育機関&gt;</li> <li>・公開講座は県内全てで実施、職業実践力育成プログラム等は少数</li> <li>&lt;民間教育機関&gt;</li> <li>・カルチャーセンター等での学びは近年増加</li> <li>・社会人対象の教育機会は企業研修が主体、近年はeラーニングが増加</li> <li>・リカレント教育の市場規模は30年で3倍</li> </ul>
学習に関する情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の講座、講師及び施設の情報をインターネットを通じて提供 登録講座は開催講座の一部で、職業に関する情報は少数</li> <li>・<b>情報提供システムの活用が不十分で、県民への周知が必要</b></li> <li>・学習相談件数は少数。職業等のリカレント教育に関する相談体制は未整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌やホームページによる情報提供が中心</li> <li>・講座を検索できる独自システム又は、県システムを通じた提供は数団体</li> <li>・県や高等教育機関等の学習情報が住民に届いていない可能性</li> </ul>	
学習成果を社会になく仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習履歴を記録し<b>地域活動に繋ぐ</b>「生涯学習パスポート」の<b>活用周知</b>が不十分<b>活用状況把握や周知・活用への取組や市町村との協体制の整備</b>が必要</li> <li>・企業による学び直しの評価の実態把握も必要</li> <li>・職業とのつながりを案内する体制が未整備</li> <li>・学習成果を生かし講師等として活躍する人材の支援が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習履歴を記録し地域活動に繋ぐ「生涯学習パスポート」の活用が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;企業&gt;</li> <li>・社員の自主的な学び直しを評価する仕組みがない 企業が大部分</li> </ul>
多様な主体との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習推進に関する市町村との包括的な連携体制なし</li> <li>・福祉機関やNPOと連携し、障害者の学びを支援</li> <li>・社会変化に対応した学習を推進するための企業・大学・NPO等との連携体制なし</li> <li>・団体連携を目的とした交流会を実施</li> <li>・社会教育人材の育成体制が未整理</li> <li>・地域における連携体制構築の支援が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者と連携した取組はごく一部</li> <li>・社会教育主事の配置数が減少</li> <li>・社会教育関係者の研修機会は減少</li> </ul>	

## 第2章 生涯学習推進の方向性

### 1 生涯学習推進の目標 「社会とつながる生涯学習」

～いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、  
その成果を生かして活躍できる生涯学習社会の実現～

### 2 実現のための視点

○生涯にわたる社会での活躍の推進 ○県・市町村・民間による役割分担と相互の連携・協働  
○ICT活用を含めた適切な方法による学習の推進

### 3 生涯学習推進の方向性

柱	区分項目	県の役割	市町村に期待する役割	民間への期待
多様な学習機会の充実	学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味・教養等の学びは、市町村・民間で実施困難な取組を全体的に提供</li> <li>先進的及び社会的包摂に関する学習方法の開発・市町村への普及</li> <li>職業につながる学びは、学び直しの動機付け講座の提供、職業訓練や大学等の専門的教育への接続</li> <li>県内企業の学び直し支援状況の把握</li> <li>各地の優れた取組の奨励・全県展開</li> <li>企業等の教育資源を活用した学習機会提供の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味・教養等の学びの提供を継続・充実</li> <li>障害者の学び支援につながる取組を拡大</li> <li>デジタル・ディバイド解消につながる学習機会の充実</li> <li>キャリア教育等の職業につながる講座の提供、専門書籍の活用</li> <li>公民館による、地域コミュニティの維持・発展の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;企業、NPO・団体等&gt;</li> <li>各団体の特性を生かした学習機会の充実</li> <li>&lt;高等教育機関&gt;</li> <li>専門的なリカレント教育の充実</li> <li>教育・研究成果を活用した公開講座の充実</li> <li>&lt;民間教育機関&gt;</li> <li>各機関の特性を生かした実践的なリカレント講座の提供</li> <li>個人のニーズに合わせた多様な学習機会の充実</li> </ul>
	学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の学習意欲の喚起 (「生涯学習パスポート」の普及、学習の重要性についての地域社会や産業界への理解促進)</li> <li>県民の学習需要及び社会の要請の把握、市町村・民間との共有</li> <li>オンラインを含む様々な方法を選択し、効果的に学習機会を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン環境の整備・講座の充実</li> <li>個人学習の場の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;企業&gt;</li> <li>学びたい人が学べる環境の整備</li> </ul>
学習に関する情報提供・相談の充実	多様な学習情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学習情報の収集・体系化・提供 (学習の意欲喚起につなぐ・学習支援情報も提供)</li> <li>民間・市町村と連携協力し、幅広い学習情報を収集</li> <li>様々な場面での周知、活用の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県への学習情報の提供</li> <li>県が集約整理した学習情報の活用</li> <li>県のシステムを住民へ周知、活用を促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;高等教育機関、民間教育機関、NPO・団体等&gt;</li> <li>県への学習情報の提供</li> <li>県が集約整理した学習情報の活用</li> </ul>
	社会での活躍につながる学習相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の要望に応じた最適な学びを案内する体制の構築 (社会教育士やキャリアコンサルタントの活用、伴走型支援)</li> <li>オンライン相談により全体的に県民を支援</li> </ul>		
学習成果を社会に生かす仕組みづくり	学習者と社会をつなぐ仕組みの構築	同上	同上	同上
	学習成果の適切な評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生涯学習パスポート」の、学びを地域活動につなぐ機能の充実、<del>学びの動機付けとして活用、さらなる周知・普及を機能充実し、経験やスキルを的確に示すツールとして、社会における適切な評価に活用</del></li> <li>産業界での評価には、「ジョブ・カード」につなぐ</li> <li>市町村連携により、「生涯学習パスポート」を周知・普及</li> <li>県内企業における学び直しの成果の評価状況の把握</li> <li>「ジョブ・カード」等の企業等での活用等、学び直しの適切な評価の促進</li> <li>「生涯学習パスポート」の機能充実や運用方法の検討と検証を継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生涯学習パスポート」の周知、活用促進</li> <li>地域での活躍の場づくり</li> <li>パスポートの情報を活用し、その人材を地域での活躍の場につなぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;企業&gt;</li> <li>社員の学び直しの成果を適切に評価する体制の整備</li> </ul>
連携・協働体制の推進	生涯学習を支える人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における生涯学習を支える人材の育成 (講師力や企画力を養う講座の提供、修了者の認証)</li> <li>生涯学習を支える人材情報の収集・体系化・提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の学習成果を生かす場の提供</li> <li>生涯学習を支える人材の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;NPO・団体等&gt;</li> <li>関係者の学習成果を生かす場の充実</li> <li>生涯学習を支える人材の活用</li> </ul>
	多様な主体との連携・協働体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進に関する県と市町村の包括的な連携体制の構築</li> <li>リカレント教育に関する産学官の連携体制の構築</li> <li>分野を問わない横の連携の支援</li> <li>地域課題に応じた幅広い分野の連携体制構築の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に応じた幅広い分野との連携・協働体制のさらなる充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;企業、高等教育機関、民間教育機関、NPO・団体等&gt;</li> <li>教育資源を活用し、地域課題の解決に向けた学びの充実</li> <li>&lt;NPO・団体等&gt;</li> <li>団体間の連携・協働の充実</li> </ul>
	社会教育人材育成の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育主事の適正配置、社会教育士育成・活用の促進・支援</li> <li>社会教育関係者の研修の体系化、効果的な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育主事の適正な配置</li> <li>県の研修の活用、地域課題に対応した研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;NPO・団体等&gt;</li> <li>指導者の育成の充実</li> </ul>